

# PRESS RELEASE

■本資料は、福山市政記者クラブで配布しております。

2017年8月4日

報道関係各位

社会医療法人祥和会  
脳神経センター大田記念病院

## 脳神経センター大田記念病院、 新・回復期リハビリ棟(仮称)建築工事をはじめます。 ～2018年春、竣工予定～

社会医療法人祥和会(理事長:大田泰正、本部:広島県福山市)は、来る8月7日(月)から、その中核的医療施設である脳神経センター大田記念病院(院長:栗山 勝、所在地:広島県福山市沖野上町)の新・回復期リハビリ棟(仮称)建築工事に入ります。

### ■新・回復期リハビリ棟(仮称)の建築理由 ～2015年より続く「病院耐震化事業」の一環として～

脳神経センター大田記念病院では昨年2016年5月、1976年12月の開院時に建築した「本館Ⅰ期」部分(沖野上町三丁目6番。沖野上三丁目バス停側)と、その後増築した「本館Ⅱ期」部分が、現在の耐震基準を満たしていないこと。ならびに、老朽化が進んでいることから、入院棟(沖野上三丁目5番)に増築するかたちで、新・外来棟を建築し、「受付」「診察」「検査」「画像撮影」等の機能を移転オープンさせました。

それに続き、このたび着工する「新・回復期リハビリ棟」(仮称)は、前記の「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」に残る「リハビリテーション室」「通所リハビリテーション」「医局」「医師オフィス」の移転とともに、新たに「回復期リハビリテーション病棟」(最終時、50床を予定)を加えて、建築するものです。



▲新・回復期リハビリテーション棟[仮称](左)完成後パース図。右側は外来棟(既設)。それぞれの3階で、市道上を空中通路(跨道橋)で結ぶ。このパース図は、沖野上交差点側(北側、三菱電機福山製作所側)から、南側(箕島方向)を望んだもの。

あわせて、市道を挟み建っている「入院棟」「外来棟」との一体運用のため、関係諸官庁の許可を得て、「外来棟」と「新・回復期リハビリ棟」(仮称)を市道上空で結ぶ「空中通路」(跨道橋)を設置します。

来る8月7日に着工し、2018年3月末日竣工予定です。「新・回復期リハビリ棟」(仮称)の完成後、「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」部分を解体し、2019年春を目処に跡地を整地します。



来年、2018年3月時点での脳神経センター大田記念病院建物配置図

- ▲東側敷地(沖野上三丁目6番)の南側に「新・回復期リハビリ棟」(仮称)を建築します。
- ▲2018年4月以降、準備が整い次第、「本館Ⅰ期」「本館Ⅱ期」部分と、既存の空中通路(跨道橋)[赤色の点線枠の部分]を解体・整地します。跡地の利用については、未定です。

■災害に強く、省エネ性能の高い  
 新・回復期リハビリ棟(仮称)を建築します。

新・回復期リハビリ棟(仮称)は、既存の検査棟に増築する形で建築します。建築地の大半を「第一種住居地域」が占めるため、近隣の家々に圧迫感を与えない地上3階建て(高さ 12.80m)の高さとします。建物の土地面積は 1,192.50 m<sup>2</sup>、延床面積 3,515.61 m<sup>2</sup>です。

建築地は、江戸時代に海を埋め立てて作られた土地であり、軟弱な地盤のため、建物全体で合計60本の節杭を地盤に打ち込みます。そのうえで、重量鉄骨によりフレームをしっかりととり、軽量パネルによる外壁を採用し、建物そのものの軽量化を図り、災害に強い構造をめざします。



▲2階「回復期リハビリテーション病棟」の食堂とスタッフステーション(右)。  
[完成時イメージ]



▲2階「回復期リハビリテーション病棟」の4人病室 [完成時イメージ]

### 新・回復期リハビリ棟(仮称)の特長

- ◎【構造】 一般的に鉄骨造で使われる床構造よりも強固な構造を採用し、下階へ伝わる振動や音を吸収し、室内環境の向上に努めます。
- ◎【省エネ】 断熱性能が高い外壁材(ALC)を採用し、室内側には吹付タイプの断熱材を併用することで、空調効率を向上させ、建物の省エネ性能を高めるよう配慮します。
- ◎【省エネ】 すべての照明にLEDを採用。低電力でありながら、明るい空間にします。
- ◎【設備】 部分的に加湿機能付きの空調機を採用し、室内の乾燥によるウィルス等の飛散を防ぐよう配慮します。

## ■「広島県地域医療介護総合確保事業補助金」の 交付を受けて、建築します。

このたびの「新・回復期リハビリ棟」(仮称)の建築では、「広島県地域医療介護総合確保事業補助金交付要綱」による「病床機能分化・連携促進基盤整備事業」として、県知事のご承認をいただき、「回復期リハビリテーション病棟」(2階)、「リハビリテーション室」(3階)部分の工事費ならびに医療機器等の備品購入について、補助金の交付を受けて建築します。

## ■地域の皆さまと コミュニケーションを深めながら、建設を進めます。

脳神経センター大田記念病院が位置する沖野上町三丁目は、「沖野上西町内会」のエリアであります。去る7月29日には町内会の皆さまを対象に、施工業者、設計事務所と社会医療法人祥和会による住民説明会を開催しました。地域の皆さまにお集まりいただき、多くのご意見を賜りました。

引き続き、地域の教育機関、官公署の皆さまに、ご説明を行っております。工事終了まで、地域の皆さまとコミュニケーションを深めながら、安全第一に建設を進めてまいります。

## ■オープン後のフロアガイド(予定。名称はいずれも仮称)

<b>3階</b>	<b>■リハビリテーションのフロア</b> ▼リハビリテーション室▼作業療法用実習室▼言語聴覚室▼リハビリテーション診察室 ▼リハビリテーション課オフィス▼会議室 ▽空中通路(跨道橋。新・回復期リハビリ棟[仮称] ←→ 外来棟) ▽検査棟接続口
<b>2階</b>	<b>■回復期リハビリテーション病棟のフロア</b> ▼病室 16 室(最終時 50 床で運用)▼食堂▼浴室▼特殊浴室▼スタッフステーション ▽検査棟接続口
<b>1階</b>	<b>■通所リハビリテーションのフロア</b> ▼通所用リハビリテーション室▼専用トイレ▼専用浴室▼通所リハビリ専用玄関・車寄せ ▽医局(医師オフィス) ▽検査棟接続口

## ■建築概要

所在地：福山市沖野上町三丁目6番  
 地域地区：第一種住居地域  
 設計：株式会社 U.D.D 設計  
 施工：株式会社 鈴木工務店  
 建屋構造：鉄骨造(S 造/耐火構造物)  
 階数：地上3階(地下室はありません)  
 建築面積：1,192.50 m<sup>2</sup>

**延床面積**：3,515.61 m<sup>2</sup>

※既存の検査棟に増築する形で建築。検査棟と新・回復期リハビリ棟(仮称)は、1～3階の各階で接続します。

※市道上に、新・回復期リハビリ棟(仮称)3階と既存の外来棟3階を結ぶ「空中通路」(跨道橋)を設置。空中通路の床面積は45.59 m<sup>2</sup>。

**工期**：着工2017年8月7日、完工予定2018年3月末

**利用開始予定**：建物竣工後、医療機器、リハビリ機器等の搬入設置を行うため、現時点では、オープン予定日は未定です。

**総工費**：約10億円(内部什器・備品、移転費用は含まず)

## 【参考】回復期リハビリテーション病棟とは？

- 脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした入院病棟です。
- この病棟では、「病名」と、「病気・怪我を発症してから入院するまでの期間」が決められています。たとえば、脳梗塞や脳出血などの脳卒中、大腿骨頸部(太ももの付け根部分の)骨折、脊髄損傷、頭部外傷、肺炎や外科手術の治療時の安静による廃用症候群などでは、発症または手術後「2ヵ月以内」、股関節・膝関節の神経や筋、靭帯損傷後は「1ヵ月以内」などです
- 福山市内には、現時点で7つの病院に「回復期リハビリテーション病棟」がありますが、福山市南部の多治米、川口、新涯、曙、箕島、水呑、鞆町等には、「回復期リハビリテーション病棟」を持つ病院は一軒もありません。
- 脳神経センター大田記念病院では、新・回復期リハビリ棟(仮称)のオープン後、約6ヵ月の試験運用後、厚生労働省・中四国厚生局に届け出を行い、「回復期リハビリテーション病棟」として、正式に運用を開始の予定です。

### ■本件についてのお問い合わせ

社会医療法人祥和会

法人本部

広報コミュニケーショングループ

担当:島津 英昌・神野 貴志

☎ 084-975-3909 [広報直通]

FAX 084-926-6798

〒720-0825 広島県福山市沖野上町 3-6-28